

街を彩る木の器

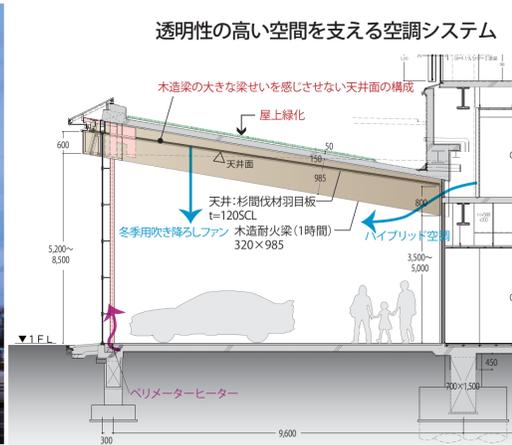
愛知トヨタ自動車のショールーム。自動車産業においては、環境性能を向上させる技術がクローズアップされ、建築においても革新的な技術でこれに応えるため耐火木造という、都心部において高い優位性を持つ「木のショールーム」をつくり、未来に発信する空間とした。

Aichi Toyota Motor's car showroom. In response to the automotive industry's orientation towards environmentally-enhancing technologies, our innovative technology in architecture created a showroom of the future, made of fireproof wood, particularly eye-catching in an urban setting.



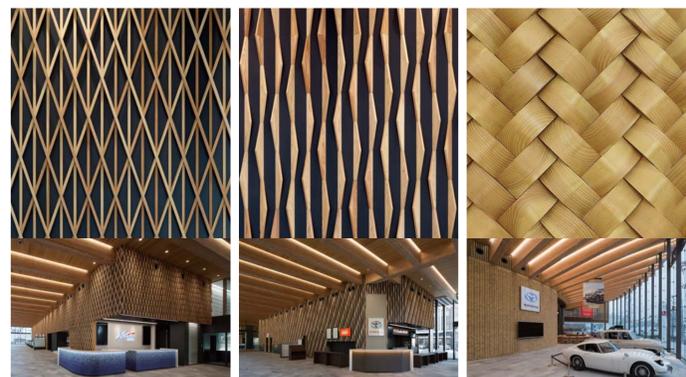
A. まちなかに大空間の木質商業空間をつくる

木造梁と鉄骨無垢柱のハイブリッド構造とするにあたり、発火点の異なる柱梁を熱伝導解析してSRC耐火接合部の開発を行った。ショールーム内部は展示車の背景となる壁面に杉間伐材を用い、手仕事と最新技術によって加工された木質空間として各店舗それぞれが独自の空間を作りこんでいる。



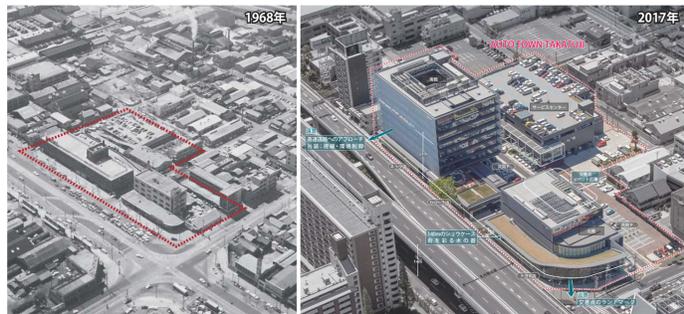
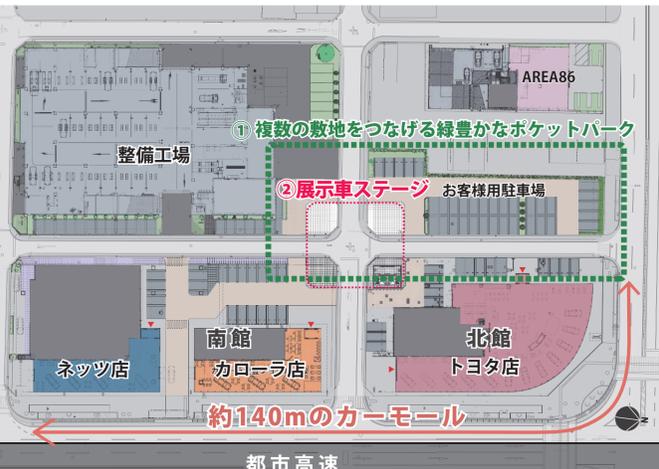
B. 地元素材を活用した各店舗の木質空間

3つのショールームが並ぶ全長140mのカーモールは、木による架構の表現や壁面の仕上げによって色とりどりの車を都市へ開く「木の器」として全体性を示している。展示車の背景は杉間伐材による木組みの壁面とし3つのショールームそれぞれで独自のあり方を構築し、見る人の視線・光によって多様な表情を見せる。



C. 4つの敷地をつなげる

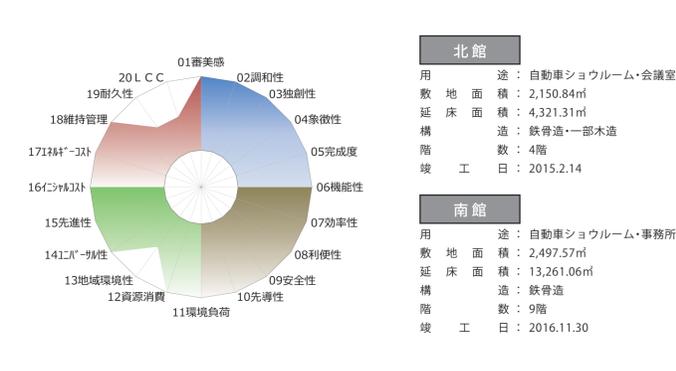
敷地東面・北面の大通り沿いは木造梁が並ぶショーケースとなる一方で西面はポケットパークとしてサービスセンターやお客様用駐車場、南館の2つのショールームとグループ本社によって取り囲むことで、イベントで賑わう一体の「カーモール」として街の往來を引き込む。北面頂部に設置した約100mのワイド大型ビジョンがこの場所の情報をトータルに発信する。



地域に根差した面的開発  
自動車産業黎明期より地域と発展してきたATグループの80周年を記念したショールーム及び本社事務所の建設計画。かつて市電が通った交通の要所は都市高速や幹線道路に変化しても、自動車ショールームが地域の顔として親しまれている。そこでこれからもこの地とともにあり続けたいという強いオーナーの想いを具現化するため、時代に左右されない器として街に開く空間を目指した。

環境・設備デザイン評価表

評価項目	特に重視したデザインの視点	評価項目に対する設計者のデザイン意図 (従前のデザインと比較し、優れている部分、卓越している部分に関して具体的に記述してください。)		自己評価欄	
		普通	優れている	卓越している	小計
A. 感性軸 (造形) Form	01審美感	☆	色とりどりの車の背景として木を用い、温もりのある空間と展示材利用など環境へ配慮している。	○	2
	02調和性	☆	4敷地で来客者へ向け建物用途が調整され、ショールーム空間を最大化している。	○	2
	03独創性	☆	屋根に木を敷き、交差点に対して開口の高さを最大化し、ランドマークとして強調している。	○	2
	04象徴性	☆	140mの木のショールームが、建築としても、車の展示空間としても時代性を現している。	○	2
	05完成度	☆	複数敷地にまたがってデザインコントロールし、調和のとれた建築・ランドスケープを創出。	○	2
B. 機能軸 (技術) Technology	06機能性	☆	都市高速の影響をシミュレーションし、ブラインドレスで開放的なショールームを実現している。	○	2
	07効率性	☆	照度や温熱環境は解析を行い、効率的で環境性能の高い計画とした。	○	2
	08利便性	☆	ハイブリッド空調やセンサー、吹き降りファンによる通年における快適な空調計画。空調・照明はスイッチ、センサーの個別制御性を高め、自動制御と併せて多様な運用に配慮した。	○	2
	09安全性	☆	非常電源、耐震受水構、緊急時排水貯留構、井水設備等、高いBCP性能をもつ。	○	2
	10先導性	☆	商空間を拡大し、構造・設備の開発を行った。	○	2
C. 社会軸 (環境) Environment	11環境負荷	☆	全館LED照明、各種センサー活用、太陽光発電でエネルギー消費の削減を行っている。ルーバーによる日射制御や、工口木質による自然換気など、外部環境の制御を行った。	○	2
	12資源消費	☆	スチールの断熱材・断熱材を多用して内部空間の仕上を行っている。	○	2
	13地域環境性	☆	屋上緑化によるアウトドア空間の創出に努め、ポケットパークなど都市空間の創出を行っている。	○	1
	14LCV-リサイクル	☆	4敷地での車動線や歩道等に各所に多目的駐車場を設け、顧客の自由度を高めている。	○	2
	15先進性	☆	耐火木造技術を用い、まちなかに大規模な木質商業施設を実現している。	○	2
D. 経済軸 (LCC) Life Cycle Cost	16メンテナンス	☆	ハイブリッド空調など、使用時間に応じて最適な空調システムを計画している。	○	2
	17ランニングコスト	☆	日中は昼光センサーと連動し、営業終了後も段階的調整で照明ランニングコストを削減している。	○	2
	18維持管理	☆	天井の高い空間は空調換気フィルターを居住域に設け、メンテナンスに配慮した。	○	2
	19耐久性	☆	商業空間に木を用いることで、経年変化による魅力向上が普遍的な価値を提供している。	○	1
	20LCC	☆	太陽光発電、雨水利用など取り組み、CASBEE：北館A、南館Sを確保している。	○	1



D. 街の常夜灯

深夜、車を照らすスポットライトのみを残して照明は全て消える。営業中はLED化+自動調光の照明により、ランニングコストを約40%削減している。

